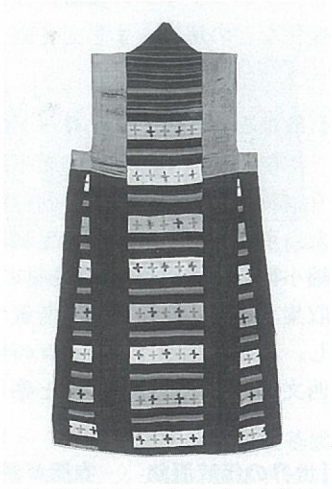
文化学園服飾博物館だより

第15号 2002.4.1

1　大礼服　昭和12年　秩父宮勢津子妃着用

2　コート　ウォルト　1890年代



3　袖無し上衣　チベット人女性用
20世紀初め

◇2001年度新収資料について◇

服飾博物館では、質的な充実をはかること、体系的に不足しているものを補うことに重点をおいて収集をすすめています。2001年度の主な収集品を地域別に紹介します。

＜日本＞では、故秩父宮勢津子妃殿下の衣装類のご寄贈を受けました。これらには戦前の宮廷の服制にもとづいた大礼服や中礼服が含まれ、貴重な資料です。このご寄贈により当館の洋装のコレクションをさらに充実させることが出来ました(写真１)。また、陣羽織、鎧下着など江戸時代の武家服飾の収集にも力を入れました。＜西洋＞では、戦後に活躍したデザイナーの代表格、C．ディオールの1950年前後のドレスを入手しました。その他にも19世紀後半のデザイナー、ウォルトのテーラード仕立ての女性用コートなども収集しました（写真２)。＜アジア・その他の地域＞では、ベトナム、ミャンマー、ネパールやチベットなどのまだ紹介される事の少ない少数民族の衣装の他、中央アジアやアフリカ地域の民族衣装の収集に努め（写真３)、同時に着装方法についての調査もすすめています。

昨年度の寄贈者および寄贈品を紹介させていただき、収集へのご協力に感謝申し上げます。[illegible]：秩父宮勢津子妃殿下の洋装、[illegible]：熊谷好博子の着物・パネル、[illegible]：ドレス、[illegible]：モーニングコート、[illegible]：パラソル、[illegible]：着物、[illegible]：モーニングコート、[illegible]：フロックコート・タキシード・帽子、[illegible]：ミシン・アイロン、[illegible]：チョッキ（明治天皇着用)、[illegible]：ネパールの帽子・トルクメニスタンの帯、[illegible]：ドレス（P．カルダン作）（敬称は略させていただきました)

’01年度活動報告

◇展　　示◇

【アール・ヌーヴォーからアール・デコへ
―ファッションの変遷―】　　4月5日～6月9日

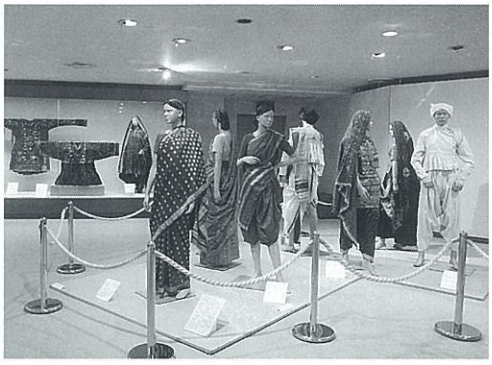
1890年代から1920年代にかけての約40年間のファッションの変遷を、対照的な二つの様式に着目して紹介しました。1890年代末から1900年代の曲線的で優美なアール・ヌーヴォー様式のドレスと、1920年代の直線的で活動的なアール・デコ様式のドレスをアクセサリーや工芸品などと共に展示し、ファッションの変遷に大きな影響を与えた社会情勢の変化などの解説をまじえて紹介しました。

【《敦煌石窟》とシルクロードの染織】 8月25日～10月13日

本展は文化学園創立80周年記念事業として文化出版局より《敦煌石窟》全10巻が刊行されるのに伴い企画されました。東京藝術大学大学院生制作による壁画の模写、石窟の縮小再現、敦煌第130窟発見の幡、平山郁夫・美知子夫妻が収集された染織品、当館所蔵の正倉院裂などによって構成し、石窟に込められた人々の篤い信仰心や染織品にみる東西文化の交流を生き生きと感じとっていただきました。

【世界の伝統服飾　―衣服が語る民族・風土・こころ―】
11月1日～’02年1月11日

21世紀を迎えますます国際化が叫ばれる一方で、世界各地でそれぞれの民族が営々と培ってきた伝統を見直そうとする動きも高まっています。本展は21世紀最初の年にあたって、博物館が所蔵する民族衣装を集大成し紹介しようと企画され、約40か国150点余りの衣装や装身具が一堂に会する大規模な展覧会となりました。ＮＨＫをはじめ多くのマスコミにも取り上げられ、学外からも多くの方に来館いただきました。



【新収品展　明治・大正・昭和の装い】
2月1日～3月15日

近年収集した日本関係の資料の中から近代の資料を紹介しました。展示は和装と洋装から構成し、和装では女官の着物、婚礼衣装、野口眞造・熊谷好博子・関口信男など染色作家の着物、洋装では松平恒忠様よりご寄贈の故秩父宮勢津子妃殿下が戦前に着用された宮廷服を中心に出品しました。展示品には寄贈品が多く含まれ、博物館資料の充実に貢献いただいております。

◇講演会の開催◇

「《敦煌石窟》とシルクロードの染織」に関連して、樊錦詩・敦煌研究院院長の講演会「敦煌出土の幡について」、平山美知子氏の講演会「シルクロードを旅して」を開催しました。また、劉永増・敦煌研究院資料センター次長、道明三保子・文化学園服飾博物館学芸室長のギャラリー・トークも行い、大勢の入場者がありました。

樊錦詩氏講演会

劉永増氏によるギャラリートーク

◇『世界の伝統服飾』刊行◇

11月１日から展示された「世界の伝統服飾　―衣服が語る民族・風土・こころ―」展に合わせ、文化出版局より『世界の伝統服飾』が刊行されました。世界を８つの地域に分け、約40か国の伝統服飾約130点を、現地の着装写真とともにオールカラーで紹介するもので、服飾を通して世界の多様な文化とさまざまな価値観を知ることができます。分かりやすい解説文とともに、文化・服装学総合研究所による服飾研究論文集も付き、画期的で充実した内容は、多くの方々に楽しんでいただけることと期待しています。本の購入に関するお問い合わせは文化出版局（03-3299-2542）まで。

『世界の伝統服飾』　158ページ　3000円

◇服飾博物館デジタル・アーカイブの公開◇

昨年度、服飾博物館では文化学園図書館とともに経済産業省の「高感性ファッション産業創成支援基盤整備事業」の一環として支援を受け、収蔵資料のデジタル・データベース化と公開システムの構築を進めてきました。４月よりそれらの中から約2,000点10,000画像をインターネットを通じて紹介できるようになりました。１点の資料について、前面、背面はもとより部分の拡大画像など異なる複数の画像を添付することによって、全体のスタイルや模様配置からカッティング、染織技法にいたるまで見ることができます。また、博物館に隣接する文化学園ファッション・リソースセンターでは、知的所有権の問題などがありインターネット上では公開できない所蔵品も加えて更に多くの所蔵品を画面上で見られます。(文化学園のホームページよりアクセスできます　http://www.bunka.ac.jp)

◇新博物館が来春完成◇

長い間の夢であった新博物館がいよいよ来春2003年１月に竣工、６月の学園創立記念日を目ざしてオープンします。学園新校舎の新宿駅寄りに隣接する23階建の事業棟の１、２階に位置し、展示室面積はおよそ650平方メートルとなります。広さは現在の博物館と同じくらいの規模ですが、甲州街道に面し見学者が入館しやすい場所となり、今まで不便であった設備面も改善されます。また展示ばかりでなく、全資料のデータベース化や、将来は実物資料に触れることのできるスタディルームの設置などを計画し、新しい発想で教育・研究面での充実をはかります。収蔵庫も完備し、貴重な文化遺産である服飾資料の永久保存への道を開きます。

日本の服飾品は日本の伝統文化を代表するものの一つであり、外国の服飾品は異文化理解への重要な手掛かりとなります。歴史的資料を参考とすることは繊維産業振興に欠かせません。服飾博物館の果たすこの様な役割を十分認識して、全国的には博物館冬の時代といわれる中で、小粒でもピリッとした服飾の専門博物館として成長させたいと考えています。

’02年度展示案内

【ファッションとモード誌】　　4月5日～5月31日

学校法人文化学園は服飾に関連する多くの学術施設を備えています。中でも当館と文化学園図書館（文化女子大学図書館）は歴史的資料を多数所蔵し、いずれもその質と量においてわが国でも有数の施設です。本展は、図書館との共催により、当館の西洋服飾の実物資料の展示に合わせて、図書館所蔵の貴重な欧文文献資料の中からファッションを扱った定期刊行物であるモード誌を紹介し、18世紀から20世紀のファッションの歴史をたどります。

【世界の絣】
パトラ　インド　19世紀

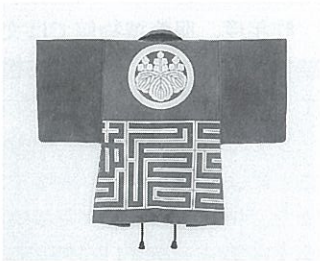
【世界の絣】　　6月19日～9月13日

絣は世界各地で広く行われる染織技法の一つです。絣には経絣、緯絣、経緯絣があり、さまざまな文様が表現されるとともに、かすり目の持つ淡い色彩には独特の美しさがあります。絣には日本の久留米絣など木綿に藍で染めた素朴で親しみのあるものから、インドのパトラのように絹地で多色を使った精緻なものまでさまざまです。今回の展示では日本をはじめ、東南アジアや中央アジア、ヨーロッパなど広い地域の絣を紹介します。

【役と能装束】
法被・半切　江戸時代

【役と能装束】（仮題）　　10月4日～11月22日

武家の式楽として発達した能に用いる装束は意匠や染織技法などに優れ、芸能衣装の中でも抜きん出た存在です。能装束は形態や染織の違いにより十数種が数えられ、役柄によって用いる装束の種類や着装の仕方が定められています。本展はこの役柄を象徴する能装束に着目し、身分や年齢の異なる男役や女役、神、鬼などそれぞれの役に応じた能装束を彦根藩主・井伊家旧蔵品を中心とした当館所蔵の能装束によって紹介します。



【動物素材の服飾】
革羽織　江戸時代末

【動物素材の服飾】　　12月11日～’03年2月28日

衣服や服飾品には綿や絹、毛といった繊維素材の他に、皮革や鳥の羽根、象牙、鼈甲（べっこう）など動物素材から作られているものがあります。本展ではこうした動物素材を服飾にどのように取り入れ、その美しさや独特な質感を生かしてきたかを紹介します。日本では鹿革の火事羽織や鼈甲を使った服飾品、西洋ではさまざまな種類の毛皮を使ったコートや鳥の羽根を飾った帽子、またこの他に鳥の嘴（くちばし）や動物の牙を使ったフィリピン少数民族の装身具などを展示します。

＊以上の予定は都合により変更されることがあります

文化学園服飾博物館だより　第15号

編集・発行　文化学園服飾博物館
〒151-8521 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL. 03-3299-2387
http://www.bunka.ac.jp